

埼玉県健康経営トップランナー企業の取り組み

昨今、健康経営を経営戦略として積極的に取り組む企業が増えてきました。経済産業省などが健康経営を進める企業を顕彰する「健康経営優良法人認定制度」の中小規模法人部門で今年度19,796法人が認定を受けました。そのうち上位500に認定された埼玉県の【ブライト500】の企業の先進的な取り組み事例を連載でご紹介していきます。

キャリア & ライフサポーターズ株式会社 代表取締役社長 ささお よしこ 笹尾 佳子

リクルートから東京電力に転職。関連会社で20億の赤字を抱えていた介護会社を2年でV字回復。中堅ゼネコンで人事役員を経験した後、健康経営コンサルタントの会社を立ち上げる。(法政大学評議員、中小企業診断士、健康経営エキスパートアドバイザー、介護福祉士、キャリアコンサルタント)



第1回

健康経営で経営戦略を加速させ、企業価値をあげる。自動切断機ニッチトップ企業

荻野精機製作所は、切断産業機械のニッチトップ企業として自動切断機の製造・販売を主な事業としている企業です。身近な製品の部品切断にも多数利用されており、高い技術力と耐久性を誇り、顧客は大手企業を中心に約2,500社以上あります。埼玉県より「SDGsパートナー」と「彩の国工場」に認定。健康経営には2022年より積極的に取り組み、2025年度健康経営優良法人の上位500社であるブライト500の認定を受けました。

健康経営を始めた背景

3代目である荻野社長の前職は薬剤師でした。経営に携わるにあたって、工学部に入り直し、モノづくりや工場運営の基本を学び、自分も現場に入るこ

とで合理化を進める必要に気づきました。2020年社長に就任以来、大きな経営変革にトライします。今までは、受注後、顧客ニーズに職人技で対応し、納品するやり方であったため、コストとパワーがとてもかかっていた。それをフロントローディング（製品開発のプロセスで業務の初期工程に負荷をかけ、作業を前倒しで進める手法）に舵を切ることで一気に生産性と品質を高めることにしたのです。結果、従来よりも少ない人数で納期までに商品を確実に納めることができ、納品時に顧客が荻野の製品はすごいと褒められることも多くなりました。

一方で大きな経営変革を実施したために、今まで頑張っていた職人の方の離職による組織風土の悪化やフロントローディングは設計部門に大きな負荷がかかるので、社員の方のストレスも相当増加したように感じられました。そんな環境下、経営変革の手綱は緩めず、しかし、社員の幸せをなによりも大事にしている会社だということを健康経営を推進することで社員に伝え、職場風土も変えていきたかったということです。

Company Profile

社名：株式会社荻野精機製作所
住所：埼玉県蕨市北町
設立：1960年
代表者名：荻野真也
従業員数：25名
事業内容：自動切断機の製造販売
売上：7.1億円（2024年度）
<https://www.ogino-ss.co.jp/>



荻野社長

取り組み事例

①ヘルスリテラシー向上と未病対策

健康診断受診100%はもちろんのこと要検査の方の受診勧奨を積極的に実施しました。受診しても

らうためには社員のヘルスリテラシー向上が重要です。特に荻野精機製作所は、ヘルスリテラシーの向上として「未病*対策」ということを意識しています。（*未病とは、発病にはいたらないものの、健康な状態から離れつつある状態。）

毎月1回、外部保健師によるセミナー実施やニュースレターの配信、毎週金曜日に健康のメルマガ配信をしています。また、年に3回ほど、全社員に外部カウンセラーによる「ヘルスチェ

ック+健康面談」を実施することで個人だけではなく、組織全体の心身の健康課題を把握、改善につなげています。

②運動習慣とコミュニケーションづくり

運動習慣醸成のため、ウォーキングチャレンジを複数回実施しています。社員を5、6名のチームに分け、チームの平均歩数を競うものです。これにより運動意識が向上し、さらにチーム間で競うことで業務時間外のコミュニケーションも増加したそうです。

また、最近では、笑うことも大事だと考えており、「他人を笑わせたか、自分も笑ったか」もポイントになる仕組みにしています。健康経営の取り組みに関しては、必ずPDCAを回しており、3カ月に1度の「健康会議」にて課題に対する進捗状況を確認し、半年毎に「振り返り会議」を行い、評価・改善・実行を行っています。

■取り組みの成果

健康診断受診の結果が全体的によくなっており、例えば、特定保健指導の該当者数が2021年は3名いましたが、現在は0名です。また、「自分の健康状態が良い」と答えた割合も2023年50%→2024年70.8%、「食べ物に気をつけている」が2023年40



健康のメルマガ配信



ウォーキングチャレンジ

%→2024年度75%に増加しています。また、インフルエンザ等で休む人が少なくなったそうです。

特に、中途採用には大きな影響がでており、応募者数の増加と質が向上したとのことです。最近、大手の自動車メーカー出身者が、ブライト500に認定されている企業なので安心して働き続けられる会社だからと思って応募したとのことでした。

■取材を終えて

企業経営において、合理化を推進し、生産性をあげることは企業が生き残るためには待ったなしの経営戦略です。しかし、企業が大きく変革を推進するとき、既存の従業員の方への負荷はかかりやすくなります。

改めて企業経営の原点に立ち戻り、社員の幸福度をあげることが企業活力の源泉ととらえ、従業員の心身共に健康であることが基盤であるとし、健康経営を推進されることで、経営戦略を加速させることができ、企業価値向上につながっていると感じました。今後は、これら健康経営の取り組み成果を従業員の方が日々実感することで、ワーク・エンゲージメントが向上され、企業の成長はさらに加速されていくと思います。